



プロメテウス

九里学園高校 図書館
新着図書案内+α 2020.7 発行

本誌は、新着図書案内はもちろん
展示コーナーで紹介している本なども含め
さまざまな本のPRを行います。

雨の季節がやってきて…

梅雨に入り、ジメジメする日もあれば、少し肌寒い日も……。雨が降ると、なかなか外にもいけませんね。そんなときは、ぜひ本を手にとってみませんか？

展示コーナー

「クラスメイトは外国人」シリーズの最新刊が入りました！

多文化共生

今さまざまな国の人が国境を越えて移動する時代です。私たちは、いろいろな文化、言語を持った人々に出会うことができます。彼らと共に社会を作っていくためには、国・民族・文化の違いを大切にし、助け合っていく必要があります。まず、その一歩として多文化共生を考える本を読んでもみませんか？



本誌で紹介した本
以外にもコーナーへ
並べています。
ぜひ図書館へ！

★シリーズの既刊もオススメ★

- ①『まんがクラスメイトは外国人』
- ②『まんがクラスメイトは外国人 入門編』

日本には、多くの外国につながる子供たちが暮らしています。家族が他の国の出身者だったり、理由があって日本へくることになったり…。皆さんと同年代の子どもたちが抱える社会的な問題や背景がマンガでわかりやすく紹介されています。

『まんがクラスメイトは外国人 課題編』

外国につながる子どもたちの物語編集委員会編 明石書店

シリーズ第3巻は、「私たちが向き合う多文化共生の現実」。あとかきの『日本にやってきた外国につながる若者』の言葉が胸に刺さる。「日本は多文化共生にはほど遠く、多文化共存にしかっていない。共生とはともに生きやすい社会をつくることだと思う」とー。



『アメリカ女子・日本女子のリアル』

みゃびー著 KADOKAWA

海外在住歴9年の日本人女子高生みゃびー。彼女の感じた日本女子とアメリカ女子の違いとは？長い海外生活の中、日本人であることを大切に生活してきたという著者だが、もちろん海外生活は楽しいこともあれば、誤解され、傷つくこともあったという。彼女の体験した海外生活をのぞいてみよう！



『ふるさとって呼んでもいいですか 6歳で移民になった私の物語』

ナディ著 山口元一解説 大月書店

6歳のときイランから父の出稼ぎで日本へやってきた少女ナディ。それから28年たった今でも彼女は日本に住んでいる。外見は外国人でありながら、日本で育ち、日本人に近い面を持つ。そんな彼女が日本で経験したことを語った一冊だ。本書を通して、日本で暮らす外国人との付き合い方を改めて考えてみよう。



『できることならステイードで』

加藤シゲアキ著 朝日新聞出版



小説家として活躍するNEWSの加藤。多くのエッセイを書く中で彼が実感したのは「未熟な時期に多様な世界を見ておいてよかった」ということ。旅をテーマに、彼の感じたことがストレートに綴られた一冊だ。

『逆ソクラテス』 サイン本

伊坂幸太郎著 集英社



「自分は何も知らない、ってことを知ってるだけ、自分はマシだ」ソクラテスの「無知の知」が飛び出す表題作は、読んだ者の先入観をきっと揺さぶってくれる。デビュー20周年の著者が描く短編集。

『世界一作りやすいおうちスイーツ』

kafemaru著 KADOKAWA

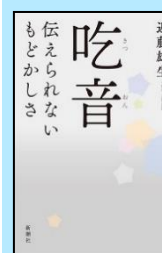


大人気YouTuberのレシピでおいしいものを作ろう！
①身近な材料で作れる
②型は100均等で買える
③Youtubeの内容をさらに作りやすくしたレシピ集。あわせてラッピングの仕方も掲載！



『吃音 伝えられないもどかしさ』

近藤雄生著 新潮社



人が生きていく上で、他者とのコミュニケーションは欠かせない。しかし、吃音ではそれが断たれてしまう。自身も吃音を持つ著者が語る吃音の本質、彼らが抱える問題に向き合ってみよう。

『話すチカラ』

齋藤孝、安住紳一郎著 ダイアモンド社



人の集中力は15秒も持たない。ゆえに15秒をすぎて同じ話をしはいけない一大学時代、先生と生徒だった著者2人が「話す技術」を余すことなく語り尽くす！

『異世界に一番近い場所』

清水大輔著 P I E



ゲームみたいな風景が見たい！そんな想いからカメラ片手に世界中を回る著者の撮った異世界みたいな風景写真集。※注意※これは実際の写真である。

展示コーナー

図書館内では図書委員や司書が、さまざまなテーマで本を紹介しています。定期的に変わるので、お楽しみに！

常設SDGsコーナー

①『世界難民の日』

2000年国連で、6月20日を「世界難民の日」とする決議がなされました。難民問題を考えてみよう。

②『アオハルしたい！部活動本』

いま青春真っ只中の皆さん！部活動でしか経験できない熱いドラマを読んでみませんか？

③『読書感想文のオススメ本』

夏休みの宿題の読書感想文、どんな本を読む？まだ本が決まっていない人は、ぜひ図書館のオススメコーナーへGO！

フィクションからノンフィクションまで
オススメを集めてみました！



Pick up!

“今”だから読んでほしい
おすすめめの1冊（新着以外も含む）

『いのちを救う災害時医療』

森村尚登著 河出書房新社



【災害が起こる中、私達が考えるべきこととは】
異常な自然現象やその他の原因によっておこる被害「災害」。本書は災害を語る本でありつつ、日々の危機管理のノウハウのヒントを得るための本である。

『家族写真』

笠井千晶著 小学館



【大切な人を想いながら読んで下さいー著者サインより】東日本大震災から9年。福島の人へカメラを抱え、通い続けた著者が描く命の記録。被災家族に寄り添う中、著者が気づいたこととは？

『駒音高く』

佐川光晴著 実業之日本社



【高校生棋士・藤井聡太棋聖誕生にあわせて、藤井本の前に将棋小説でも】プロを目指す中学生、引退前のベテラン棋士。将棋に関わる人の視点から描いた将棋への愛あふれ、かつ将棋の奥深さを伝える一冊。

『時の名前』

三枝克之 編・文 西美都 写真 角川書店



時間を扱った本であるが、何も難しい本ではない。美しい写真と、時間にまつわる言葉がちりばめられたギフトブックのような一冊だ。身近過ぎるからこそ、あえて意識しない「時間」にひたってみよう。

『外国人だけが知っている観光地日本』

ステファン・シャウエッカー著 大和書房



外国人が気になる日本のあれこれ。なぜ日本に来るのか、日本で好きな場所、日本に来てよかった体験など…。日本を英語で紹介する「ジャパンガイド」サイト運営者のスイス人著者が描く日本の魅力に気付ける1冊。

『なるほどデザイン』

筒井美希著 MdN



デザインに興味がある人向けの「目」で見るデザイン本。著者が仕事を通して一番役立ったのは先輩方からのアドバイスと現場での経験だという。Before→After の変化を見つつも、デザインの世界へGo!

『青くて痛くて脆い』

住野よる著 KADOKAWA



人と不用意に関わらないようにしていた僕は、あるとき空気の読めない発言をする秋好に出会う。しかし、いつしか秋好の魅力にひかれていき…。「キミスイ」著者の青春小説。

『手のひらの楽園』

宮木あや子著 新潮社



美容科・看護科・調理科など職業に関する学科のある「働くための高校」を舞台にした青春小説。寮生活をしながら夢に向かって進むが、あるとき母が失踪して…。主人公が自分らしく進んでいく姿に元気がもらえる一冊だ。

『チェンジの扉』

認定NPO法人ACE著 安田菜津紀写真 集英社



児童労働問題をきっかけに、人生を取り戻した子どもたちや親。それと同時に、彼らに関わったスタッフが自身の人生の意味や目的を再確認し、変化していく。彼らの「チェンジ」の瞬間をのぞいてみよう。

『ソッカの美術解剖学ノート』

ソク・ジョンヒョン著 オーム社



骨を知り、筋肉を知ること、生命力のある絵が描ける！韓国の有名マンガ家が描く美術解剖学。人体の構造がなぜそうなったのかを語り、絵の描き方を教えてくれる一冊だ。

『水曜日が消えた』

吉野耕平監督・脚本 本田竜成著 講談社文庫タイガ



彼の中には7人の僕が同居している。曜日ごとに人格が変わるため曜日名でお互いを呼び合っていたが、ある時火曜日が目覚めると、その日は水曜日で！？水曜日はどうしてしまったのか？

『最後の医者は桜を見上げて君を想う』

二宮敦人著 T0 ブックス



【校長先生より寄贈】
誰にも必ずやってくる「死」。本書は、医者たちの生きざまを通して、「死生観」を考えさせてくれる一冊だ。一人は「死を肯定する医者」、もう一人は「生きるために執念を燃やす医者」。あなたは死をどう考える？

『さよなら世界の終わり』

佐野徹夜著 新潮文庫 nex



「君は月夜に光り輝く」の著者による最新作であるが、実はほんとのデビュー作である。著者が15歳のときの自分に向けて書いたという本作は、思春期の生きづらさを抱える貴方へ贈る物語だ。

『永遠の夏をあとに』

雪乃紗衣著 東京創元社



幼い頃神隠しにあり、その間の記憶がない小学生の拓人。ある夏、彼の前に現れたのは年上の女性サヤ。昔一緒に暮らしていたと聞かす、拓人は彼女のことを覚えておらず…。

『金子と祐而 歌に生き愛に生き』

五十嵐佳子著 朝日新聞出版

朝ドラ「エール」のモデル小関祐而と妻金子。妻金子目線で語れる物語。

『コンフィデンスマンJP』

古沢良太脚本 山本幸久著 ポプラ文庫

映画化した「ロマンス編」「プリンセル編」のノベライズ

継続購入図書

下記レーベルを継続購入しています。

岩波新書、岩波ジュニア新書、ちくまプリマー新書
館内「新書コーナー」に最近のものは別置されます。

『部活魂！この文化部がすごい』

読売中高生新聞編集室著 ちくまプリマー新書



本気だから流せる涙がある。本気だから悩むことがある。本気だから知ることができる人の温かみがある。文化部を題材に、10代の本気を小説風に紹介する。取り上げられるのは、初めて聞くユニークな部活までさまざまな文化部。個人的に、鹿踊り部がとても気になる…。

『はずれ者が進化をつくる』

稲垣栄洋著 ちくまプリマー新書



生物の個性は、多様性といえる。さまざまな生物は関係しあい、さまざまな生態系を構成する。そう生物の世界は個性にあふれているのだ！生物の個性を通して、「個性」を改めて考えてみよう。

『10代から考える生き方選び』

竹信三恵子著 岩波ジュニア新書



いま社会は大きな曲がり角にいる。いままでも同じように生きていけばいい、と言えなくなっている。でも「じゃあどうしたらいいの」と不安になる人も多いだろう。本書では、どう変わってきているのか、じゃあどう選択したらいいのかのヒントを教えてくれる。

『リスクの正体 不安の時代を生き抜くために』

神里達博著 岩波新書

『ドキュメント強権の経済政策』

軽部謙介著 岩波新書

新書コーナーにはその他新着も入っています！

常設展示コーナー

メディア
コーナー

映画・アニメ・
ドラマなど映像
化された作品の
原作があります